

平成30年度決算の状況

平成30年度 水道事業報告書

1. 概 況

(1) 総括事項

水道事業は、給水人口の減少等による使用水量の減少に伴って、料金収入が年々減少傾向にあり、経営的には非常に厳しい状況となっています。

今年度においては、工場用、臨時用の料金収入の増加及び経費の削減等の取組により、黒字とはなりましたが、営業収支では依然として営業損失を計上しており、よりいっそうの経費の削減等による経営の健全化が求められます。

水道事業の財政運営は、今後も一段と厳しいものになっていくものと想定されますが、施設の更新、耐震化を計画的・効率的に推し進め、水道事業のあるべき姿である「いつでも安全で安定した水の供給」の実現に向けてさらに取り組んでいきます。

(ア) 営 業

本年度の有収水量は、3,281,454^m（1日平均8,990^m）で、前年度と比較して3,271^m（0.1%）の減少となりました。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事等に総額で127,439,840円（うち消費税及び地方消費税7,430,358円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・西栄三丁目・南栄三丁目地内配水管改良工事(4工区)	14,879,160円
・小方一丁目地内配水管改良工事(H30工区)	13,870,440円
・防鹿水源地日常水質モニター更新工事	16,092,000円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成30年度の収益的収支は、収入総額 527,659,098円、支出総額 466,849,270円で、差引き 60,809,828円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	527,659,098円
(消費税及び地方消費税抜き)	支出総額	466,849,270円
	差引利益額	60,809,828円
資本的収支	収入総額	43,478,564円
(消費税及び地方消費税込み)	支出総額	173,994,752円
	差引不足額	130,516,188円

資本的収支の不足額130,516,188円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 7,430,358円、過年度分損益勘定留保資金 123,085,830円で補てんしました。

○平成30年度 工業用水道事業報告書

1. 概 況

(1) 総括事項

工業用水道事業は、旧第2期工業用水道事業の企業債償還利息や減価償却費が、収支を大きく圧迫していますが、経費の節減等に努め、今年度も利益を計上することができました。

今後も、適切な施設の維持管理を行うとともに、より一層の経費節減を図りながら経営の健全化に努めてまいります。

(ア) 営 業

本年度の有収水量（計量分）は、10,013,182^m（1日平均 27,433^m）で、前年度と比較して715^mの減少となりました。

(イ) 建設改良

本年度は、施設の改良工事等に総額で4,842,720円（うち消費税及び地方消費税 358,720円）を支出しました。

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成30年度の収益的収支は、収入総額 513,254,779円、支出総額 439,799,809円で、差引き 73,454,970円の純利益となりました。

なお営業外費用中、企業債利息 64,100,163円の財源にあてるため、未売水企業債利息債 11,500,000円を借り入れました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	513,254,779円
(消費税及び地方消費税抜き)	支出総額	439,799,809円
	差引利益額	73,454,970円
資本的収支	収入総額	263,393,400円
(消費税及び地方消費税込み)	支出総額	567,371,773円
	差引不足額	303,978,373円

資本的収支の不足額 303,978,373円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 358,720円、過年度分損益勘定留保資金 233,895,134円、当年度分損益勘定留保資金 69,724,519円で補てんしました。

平成30年度 公共下水道事業報告書

1. 概 況

(1) 総括事項

今年度においては、平成28年度から実施していた防鹿地区の管渠布設工事が完了しました。

一方で、処理人口の減少等に伴う使用料収入の減少傾向がある中で、施設の老朽化が進んでおり、その対策を含め厳しい経営状況が依然として続いています。

そのため、下水処理場やポンプ場等の施設の延命化と維持費の平準化等による中長期的な費用の抑制を図る「下水道長寿命化計画」に基づき、経費の節減等による経営の健全化に引き続き務め、今年度も利益を計上することができました。

今後も、一層の経営の健全化に努めるとともに、安心して生活を営むために不可欠な、快適な生活環境の維持と公共用水域の水質保全に取り組んでいきます。

(ア) 営 業

本年度の有収水量は、2,895,642^m³（1日平均 7,933^m³）で、和木町からの受入水量は、1,584,554^m³（1日平均 4,341^m³）になりました。

本市では、人口普及率は94.9%に達しており、区域内水洗化率は99.6%で、全国的に見ても高い水準を維持しています。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事費に総額で222,208,623円（うち消費税及び地方消費税14,775,652円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・小島汚水中継ポンプ場（合流）電気設備改築更新工事	60,000,000円
・大竹下水処理場汚泥処理棟電気設備改築更新工事	37,295,640円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成30年度の収益的収支は、収入総額 900,625,172円、支出総額 832,673,381円で、差引き 67,951,791円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	900,625,172円
（消費税及び地方消費税抜き）	支出総額	832,673,381円
	差引利益額	67,951,791円

資本的収支	収入総額	232,905,090円
（消費税及び地方消費税込み）	支出総額	468,187,924円
	差引不足額	235,282,834円

資本的収支の不足額 235,282,834円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 9,900,934円、過年度分損益勘定留保資金123,395,930円、当年度分損益勘定留保資金101,985,970円で補てんしました。